

天高く、馬肥える秋！天気のことについて調べていこう！

① 天気といえば？連想する言葉をたくさん書いてみましょう！

自分の意見

他の人の意見

② 次のことわざはホント？それともウソ？ その理由も考えてみよう。

夕焼けの次の日は晴れ ウソ・ホント ←○をつけよう！

・理由



ツバメが低く飛ぶと雨 ウソ・ホント ←○をつけよう！

・理由



カエルが鳴くからか～えろ！（雨が降る？） ウソ・ホント ←○をつけよう！

・理由



てるてる坊主をつると晴れ ウソ・ホント ←○をつけよう！

・理由

ちょっとだけ天気のお勉強をしましょう！～気象要素について～

ある地点におけるある時間の大気の状態を表す要素のことを（ ）という。気象要素の主なものとして次のものがある。この気象要素は上空からは（ ）などで地球の大気のように海のように地上からは（ ）などで雨や風、雲の観測を行い天気予報のデータとして使われている。

（ ）
（ ）で測る。建物から離れた風通しの良い高さ 1.2～1.5mのところ。単位は（ ）

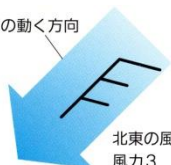
（ ）
（ ）で測る。
（読み方は後で教えます。）建物から離れた風通しの良いところ。単位は（ ）

（ ）
（ ）で測る。
1気圧=1013hPa=約1N/cm² 100m高くなる毎に約10hPaずつ低くなる。

（ ）
（ ）で測る。風の吹いてくる方向を（ ）方位で表す。



（ ）
風の吹く強さを（ ）段階で矢羽の本数で表す。



（ ）
雲の形（名前） 高さ、厚さ
雲量（全天に占める空の割合）
10%未満…快晴 10～90%…晴れ 90%以上はくもり

2年 組 番 氏名

「明日の天気はどうだろうか?」「今年の天候はどうだろうか?」将来の天気を知りたいと願う気持ちは、今も昔も変わりません。では、レーダーやアメダス、気象衛星のなかった時代にはどうやって天気を予想していたのでしょうか? 実は、晴れたり雨が降ったりする前に、空がどんな様子をするのかを長い間観察しておいて、天気が変わる「きざし」を見つけ出そうとしていたのです。「夕焼けが見えたら次の日は晴れ、朝焼けは雨」「ツバメが低く飛ぶと翌日雨」というようなものが代表例で、雲の様子や風向、空気の湿り気などを自分で確かめて天気予報をする方法で「観天望気」と呼ばれています。この観天望気は現代の天気予報に照らし合わせてみても、かなりの確率であたることもあるのです。先にあげた例はよい例でしょう。

ただ、実際には、自分の目に見える範囲の空を観察するだけで天気予報をすることは難しいのです。そのために、現在では、世界各地で観測された気象データをもとに、コンピュータを使って予報を出しています。方法は科学の進歩によって変わってきていますが、長い間の観察データの蓄積や経験から天気予報をしている点は、今も昔も変わりません。君も空を見上げて、観天望気してみましょう。

自然や生物の様子から天気を予測することを「観天望気(かんてんぼうき)」といいます。観天望気は、上空の様子を伝えてくれる先人の知恵なのです



晴れ

晴れるかどうかは
前日の夕方わかる

旅行やイベントの予定があるときは絶対に晴れて欲しいですね。晴れるかどうかを知りたいときは、前日の夕方に西の空を観察してみましょう。

日本の上空で吹いている偏西風は、雨雲を南西から北東へと移動させます。

そのため、西の空に夕焼けが見えたときは、翌日に雨雲が通ることが少ないのです。



夕焼けの翌日は晴れ

天気は西から東へと変わるため、このことわざが生まれた

写真: 濱田陽守



風の強さ

夜空を見て風の強さを予測しよう

夜空の星がキラキラ揺れて見えたことはありますか? 美しい風景ですが、翌日は強風にご注意を! 星が動いて見えるのは、上空の風が強い証拠。

翌日はその風が地上へ降りてくるので、強風になることが多いのです。



星がキラキラ動くと風が強い

星の光と観測者の間に強い風が通り、星の光を屈折させる

© istock photo/knickohr



雨

雨が降るかどうかは
雲をチェック

天気は大体、上空から変わっていくので、雲に関する観天望気もよく当たります。例えば、飛行機雲が太るのは、空が湿っているから。つまり、雨が近いことがわかります。また、「富士山が笠をかぶれば雨」というのは、太平洋側から低気圧の湿った空気が吹き付けている証拠。笠雲が低気圧の接近を教えてください。



飛行機雲が太ると雨が近い
上空が湿っていることを示す

写真: 大沼英樹



富士山が笠をかぶれば雨

写真提供: 富士市

笠雲などの雲ができるもととなる湿った空気は、低気圧によって運ばれることが多い